

## 塘研究室現地調査報告 5

磐梯朝日国立公園の山岳性アザミウマ類の分布特性を明らかにするために実施している県内の他の山岳域におけるアザミウマ相調査の第2弾として、9月21日に実施した尾瀬国立公園内の燧ヶ岳（標高 2356m）の調査を報告します。燧ヶ岳は東北地方の最高峰であり、山頂からは尾瀬沼や尾瀬ヶ原を一望できます。調査者は今回も教員1名だけでした。

御池登山口から広沢田代、熊沢田代を経て1つ目のピーク（俎ヶ嶺）に到着しました。ちなみに燧ヶ岳は5つのピークをもつ山で、通常は俎ヶ嶺（標高 2346m）と柴安ヶ嶺（標高 2356m、このピークが最高峰）の2つのピークに登ります。俎ヶ嶺（まないたぐら）から尾瀬沼を見た後すぐに柴安ヶ嶺（しばやすぐら）方面へ下り、柴安ヶ嶺の山頂で尾瀬ヶ原から至仏山を見た後、初めて採集ネットを広げました（連休初日の好天もあって、人の数も多かったため、上りでの調査は自粛しました）。

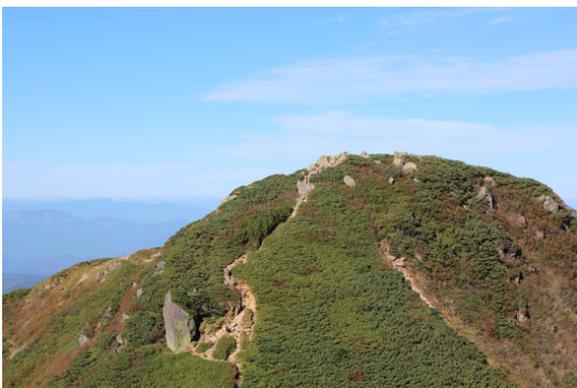
燧ヶ岳俎ヶ嶺の少し御池側に下りた場所から得られたアザミウマ亜科の未記載種は、県内（や長野県）の他の山岳域のものとは体色がやや異なります。今回はこの場所のサンプルを得ることが最大の目的でしたが、無事にサンプルを採ることができました。その後、エンレイソウやキヌガサソウなどのユリ科の葉裏に生息することが長野県で知られている *Ctenothrips* 属の高山性種を探しながら熊沢田代まで下山しました（残念ながら発見できませんでした）。登山道沿いではエゾリンドウが見頃で、オゼミズギク、アキノキリンソウ、アザミ類などもまだ花を咲かせていました。アキアカネはすでに下山してしまったのか姿を見かけませんでしたが、熊沢田代や広沢田代の池ではアオアイトトンボなどがまだ活動しており、ルリボシヤンマは産卵していました。広沢田代の池では雄が黒っぽい赤トンボ（おそらくムツアカネ）が産卵していました。また、熊沢田代の池では高山性のマツモムシ類であるキイロマツモムシの生息を確認することもできました。



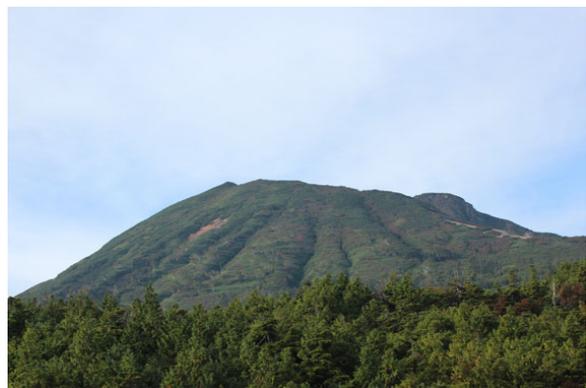
広沢田代の木道沿いのオゼミズギク



燧ヶ岳登山道から見た熊沢田代の2つの池



燧ヶ岳の最高標高・柴安ヶ嶺（標高 2356m）



熊沢田代から見た燧ヶ岳